

ホケンダイつきいちゼミ(2025年9月号)



Q1.研究テーマを教えてください。



A. 国内外の、主に学童期の子どもの栄養と健康の問題に、学校、給食の視点を持ちながら研究しています。



Q2.お名前と今の仕事の内容を教えてください。



A. 青森県立保健大学 栄養学科に勤務しています、鹿内彩子です。
学部の授業担当科目は、栄養教育(栄養教育論(Ⅰ・Ⅱ)、栄養教育実習(Ⅰ・Ⅱ))、栄養カウンセリング論などで、2年後期から3年生にかけての科目です。
4年生の教職(栄養教諭)課程科目も担当しています。その他には、海外の大学との交流活動や学部学生の卒業研究、研究テーマに関心を持って入学した大学院生と研究活動を行っています。大学院では、応用栄養学特論・演習というオムニバスの科目を一部担当しています。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年9月号)



Q3. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。



A. 研究室名は、「学校栄養研究室」で、私、鹿内が研究室を運営しています。



Q4. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



A. 海外の開発途上国での活動に関心があったため、国内の病院等で管理栄養士として勤務した後、青年海外協力隊やNGOに所属し栄養士として現地の人と共に働きました。その中で、人が社会の中で健康に生活し活動するためには、幼少期から自らの食や栄養について関心を持ち、食の自己管理能力を培うことが大変重要であり、日本の栄養士(管理栄養士・栄養教諭等)の経験や知見は開発途上国や特に食文化に共通点が多い東南アジア諸国の栄養士や関係する方々にもっと共有されてよいものだという思いがあります。

また、日本の栄養士がそれぞれの現場で調査研究活動を実施し成果を共有し、必要なスキルを高めながら、開発途上国の栄養士の方たちと共に社会に貢献していくことの重要性和後進の育成の必要性を実感しており、その様なことも含めながら研究を実施していきたいと思っています。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年9月号)



Q5.それはどんな研究ですか。



A. 主には、学童期の子どもへの栄養教育(指導や使用媒体、学校給食等を含む)に関連する調査を国内外の学校などをフィールドとし実施し、その内容や改善点について分析・検討する研究が多いです。カンボジアでは、学校での栄養教育に関する調査研究のほか、栄養以外の分野の研究者と共に地方の子どもの研究にも参加しています。詳しくは、研究室紹介をぜひご覧ください。



Q6.どんな成果が得られていますか。



A. 今まではあまり明らかになっていなかった、学校における栄養士(学校栄養職員や栄養教諭)の活動の実際や、栄養教育活動、学校給食と児童生徒との関係や課題を明らかにし、学会や論文として発表しています。調査を実施したり、他の調査に参加することで、他分野の研究者の方や、海外の大学等の関係者と良い協力関係を構築できてきたことも成果の一つであると思っています。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年9月号)



Q7.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。



A. 調査研究の結果は、関係する方たちに共有し、現場で活用していただけたらと思っています。また、当研究室での研究をより深めていくために研究室としても結果を活用し研究に繋げていきたいです。



Q8.皆さんにメッセージをお願いします。



A. 当研究室では、国内外の学童期の子どもの栄養と健康の問題に、学校、給食の視点を持ちながら取り組んでいます。国内外の学校、給食、栄養教育の実践に関わる分野に関心のある皆さんとともに研究活動を行うことで、人々の健康に栄養の側面から貢献し、また、現場で働く栄養士(管理栄養士・栄養教諭等)、若手の育成にも貢献していきたいと考えています。

現場で活躍する方々が大学院生として皆で学んでいます。現場での経験を大学院で研究し、さらに専門性を高めていきませんか？お待ちしております！

ホケンダイつきいちゼミ(2025年9月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？



対人ケアマネジメント領域 学校栄養研究室 鹿内彩子
メールアドレス:s_shikanai@ms.auhw.ac.jp

よろしくお願いします！



鹿内先生、ありがとうございました。
保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、
情報を発信していきます！！